

ITS特集によせて

平素より、NEC製品並びにソリューションのご利用を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本のITSは、1996年に当時のITS推進5省庁（警察庁・通産省・運輸省・郵政省・建設省）が交通事故、渋滞など道路交通問題の解消、新産業の創出、高度情報通信社会の先導としての期待のもと「高度道路交通システム（ITS）に関する全体構想」を発表したことで本格的に始動しました。その間、VICSおよびETCの全国展開が実現し、現在VICS機能を持つカーナビ、ETC車載機がともに累計で2,000万台までに普及し、ITSは一定の成果をあげることができました。今後は各システムが連携・融合し、さらなる成果をあげていくセカンドステージに入ったと言われています。

このITSのセカンドステージにおいては、2004年10月に日本ITS推進会議により、ITS推進の指針が出され、次の3つの大きな目標を掲げ、産官学で連携して取り組んでいくことになっています。

- 1) 安全・安心な社会の実現（交通事故死者ゼロ社会）
- 2) 環境にやさしく効率的な社会の実現（渋滞ゼロ社会）
- 3) 利便性が高く快適な社会の実現（移動に伴うストレスゼロ社会）

こうしたなか、内閣官房より2006年1月にIT新改革戦略が発表され、ITSの推進等により、2012年までに交通事故による年間の死亡者数を5,000人以下までに削減する方針が打ち出されました。

また、車からの排出ガスによる地球温暖化も深刻な社会問題となり、京都議定書においては、運輸部門の2010年度CO₂排出量の目標は2億5千万トンとされています。そのためには運輸部門として5,490万トンの削減が求められており、ITSへの期待は大きくなっています。

一方、パソコンでのインターネット利用や携帯電話が急速に普及し、今では両者とも日常生活において不可欠なものになっています。さら

に、携帯電話でのインターネット利用がパソコンでの利用をしのぐようになり、パソコン主体のインターネットの時代からあらゆるものがインターネットに繋がる「ユビキタス・ネットワーク」の時代に移り変わろうとしています。車も例外ではなく、大手自動車メーカーによるテレマティクス・サービスにおいては100万台以上の車がネットワークと繋がりサービスを受けるようになってきています。

NECはITSのコアテクノロジーとなる、センサ、通信、情報処理をはじめ、システム全体を最適化するインテグレーション力を保有しています。こうしたポテンシャルを背景に弊社は、ETC、VICSなどのITSの基盤となる社会システムをはじめ、路車間通信装置、車車間通信装置など車のITSコア技術の開発に取り組んでいます。

本特集号におきましては、ITSの安全・安心、環境、利便性の向上に向けたソリューションへの取り組み、並びに、それらを支えるコアテクノロジーについて紹介させていただきます。本「ITS特集」が、皆様の事業活動に役立つ情報となりましたら、幸いです。今後とも、皆様方の変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



執行役員
伊藤 彰